

前期：2月28日(土)～4月5日(日)

小野竹喬《初雪》 昭和38(1963)年 笠岡市立竹喬美術館蔵〔前期〕



2026.2.28(土)▶6.14(日)

※展示替え期間は休館となり、ご入館いただけません。ご了承ください。

休館日：毎週月曜日(ただし、5月4日は開館し、5月7日は休館)、4月6日～4月24日は展示替えの為休館
開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)

入館料を2026年4月1日より改定させていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2月28日 一般500(400)円 ※()内は団体20名以上
▶3月31日 ※高校生以下無料(学生証をご提示ください)
※65歳以上は無料(年齢のわかるものを必ずご提示ください)

4月1日 一般600(500)円 ※()内は団体20名以上
以降 ※高校生以下無料(学生証をご提示ください)
※笠岡市内在住の65歳以上は無料(住所・年齢のわかるものを必ずご提示ください)

後期：4月25日(土)～6月14日(日)

小野竹喬《夏草》 昭和23(1948)年頃 笠岡市立竹喬美術館蔵〔後期〕



春
夏
秋
冬

竹喬美術館

めぐる季節の雪月花

※「雪月花」とは、四季おりおりの美しいがめ。
〔「広辞苑」第五版より〕

日本には春夏秋冬おりおりに自然の美があり、伝統的な風俗があります。日本画のモチーフとしても四季は重要なテーマの一つです。「雪月花」という言葉は、季節の美をあらわす慣用句ですが、冬の雪、秋の月、春の花をはじめとする季節感を表す画題は、古来から今日に至るまで繰り返し描かれてきました。

小野竹喬は「日本の風土」というエッセイの中で次のように語っています。

自然はいつでも、ほぼ同じ姿、同じ移ろいで、私達の前にあるのであろうが、作者の側で言えば、千差万別のもとなる。一人が感じた事を、も一人が同じように感じているとは思わない。どこかで違っている。それが自然を前にして感じる人間の価だと云ってもよい。

(『三彩』No.268 特集/日本の自然 昭和46年1月)

今回は竹喬作品をはじめとして、さまざまな画家が描いた四季の美を季節ごとに展示します。2月28日からの前期展示では秋・冬を描いた作品をご紹介します、4月25日からの後期展示では春・夏の作品をご紹介します。春夏秋冬で移り変わる季節の美と、画家ごとの多様な表現をお楽しみください。

春
夏
秋
冬

竹喬美術館

めぐる季節の雪月花

前期/2.28(土)▶4.5(日)

秋 冬

予約不要

学芸員によるギャラリートーク
3月1日(日)、28日(土)ともに13:30~14:30



吹田草牧《春日山晩秋》昭和5(1930)年
笠岡市立竹喬美術館蔵



島成国《秋趣》昭和初期 笠岡市立竹喬美術館蔵



谷口香嶺《正月風遊図》明治43(1910)年頃
笠岡市立竹喬美術館蔵



岩倉壽《霜月》平成25(2013)年 笠岡市立竹喬美術館蔵

後期/4.25(土)▶6.14(日)

春 夏

予約不要

学芸員によるギャラリートーク
4月25日(土)、5月31日(日)ともに13:30~14:30



金谷朱尾子《この荒寥の春に》平成8(1996)年 笠岡市立竹喬美術館蔵



幸野樸嶺《徳童掃花園》
明治16(1883)年頃 個人蔵



山口華楊《桃果》昭和43(1968)年
第一回潮会展 寄託品



菊池芳文《瀑布》
明治32(1899)年 個人蔵

●今後の展覧会予定

テーマ展「絵のなかの いきものたち」2026年7月4日(土)~10月4日(日)

(会期中展示替えあり)

笠岡市立竹喬美術館

〒714-0087 岡山県笠岡市六番町1-17 TEL 0865-63-3967 FAX 0865-63-4496
<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/museum/>



●交通

山陽自動車道 笠岡I.C.から15分

JR山陽本線笠岡駅から

●タクシー 5分

●徒歩 25分

●笠岡駅前4番のりば

神島(こうのしま)循環/乗時(のりとき)行き/

美の浜(みのはま)行き 「市民会館・竹喬美術館前」

下車すぐ 所要5分・160円

